

(13) 栄養学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会（委員長：武藤志真子、女子栄養大学）は、20年7月、10月、21年1月、3月の計4回開催し、学士力の問題を中心に研究するとともに、専門科目の授業規模の適正化（40名対象授業の拡大）に関する検討を行った。学士力の検討に当って、①管理栄養士国家試験の合格レベルが最低限であり、学士力は栄養士・管理栄養士教育で得た知識・能力等のライフステージにおける応用力、活用力が重要、②専門基礎では人々の心身の健康、食に関する知識とスキル、集团的視野、食情報の収集・分析・活用・発信の力、専門分野では集団への食事提供、予防医学における栄養管理、病弱者の臨床栄養管理、栄養政策に取り組む力とし、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」及び病院・福祉・保健所などで働いている管理栄養士の意見を参考に整理し、インターネットで経営工学担当教員（サイバーFD研究員）241名に意見を求めたところ、27名からの意見を踏まえ、以下の通り中間的にとりまとめた。

<栄養学教育における学士力>

1. 栄養・食生活と心身の健康との相互関係を理解できる。
2. 栄養・食品・調理の知識を持って、健康の増進・維持・管理に関する栄養教育ができる。
3. 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事・栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる。
4. 食環境づくり（食情報、食物確保、食の安全など）の必要性を理解できる。
5. 栄養マネジメントの基礎となる栄養評価と栄養改善計画が実施できる。

なお、専門科目における40名対象授業の拡大問題については、ITを活用することで80名の授業でも効果には差がないことを、評価・証明していく実験等を21年度に計画することにした。